

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 紀南高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒には希望を 保護者には夢を 地域には信頼を
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、個々の特性を活かして活躍できる生徒。</li> <li>自らを認め、他者も認める人間関係を構築することができる生徒。</li> <li>地域や社会に主体的に参画し、地域に貢献できる人材。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる教育活動を通じて生徒一人ひとりの自己肯定感・有用感を高めるため、生徒に寄り添うことができる教職員。</li> <li>育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合い、学び続けることができる教職員集団。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】学校生活への充実感、満足感、安心感。学力の向上。進路保障。</p> <p>【保護者】生徒の進路実現、社会で通用する基礎的な学力とコミュニケーション能力の育成。安心・安全な学校生活。</p> <p>【地域】地元地域を活性化する人材の育成。地域になくてはならない学校。</p>
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	<p>◎学校運営協議会は学校運営の主体として連携する相手との総括的な調整を行う。</p> <p>【同窓会】母校・地域の発展に貢献できる生徒の育成。</p> <p>【小・中学校】卒業生が生き生きと生活し、成長する姿が感じられる高校。</p> <p>【地域の関係諸機関】さまざまな活動への高校生の参加。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくり。</p> <p>【PTA】生徒支援のためのPTA活動活性化。</p>
	連携する相手への要望・期待	<p>◎学校運営協議会は連携する相手に対し、教育活動への積極的な参画を促す。</p> <p>【同窓会】生徒への支援をそれぞれの立場でサポート。</p> <p>【小・中学校】生徒に関する情報交換や教員間の交流。</p> <p>【地域の関係諸機関】それぞれの立場から生徒・保護者への支援。</p> <p>【学校活性化協議会】中学生に選んでもらえる学校づくりを支援。</p> <p>【PTA】保護者との架け橋。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>学びに向かう姿勢を支援する教育ボランティアを効率的に募集する方法を検討する必要がある。</li> <li>これからの高校教育の在り方について、学校運営協議会委員と教員が対話し、コミュニティ・スクールとして何ができるかということを考える場の設定が必要である。</li> <li>地域への愛着を育む取組を紀南高校はかなり取り組んでいる。これをさらに「この地域をよくするために何ができるのか」ということを生徒自身が主体的に、自分事として考えられるような学びを考える必要がある。</li> <li>マネジメントシートの在り方について、考える必要がある。</li> </ul>
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学んだことをしっかり身に付け、それにより学力が向上するとともに、「学んだことが役に立つ」「やればできる」という体験をとおして自己肯定感や自己有用感を高めることが必要である。そのため、教育活動のあらゆる場面で生徒の自主性・主体性を引き出せるよう教職員が授業改善や教育課題に関する研修を積極的に行ってきた。これらのノウハウを継承・発展していくことが重要である。</li> <li>安心して学校生活を送るために、生徒一人ひとりにあった方法で学校生活が支援できるように、生徒の様子等の情報を共有する機会を多く持つようにしてきた。また関係機関との連携も積極的に行うようにしている。これらのことを基盤として、より多様化する生徒の実情や環境に対応できるよう組織体制を整えていく必要がある。</li> </ul>

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す学校像をふまえた、生徒へのより丁寧な支援のために、教職員が丁寧な情報共有をおこなう必要がある。</li> <li>・生徒に寄り添い、一人ひとりにあった方法で生徒を支援することは本校の教育活動の根幹である。このことには大変な労力と時間が必要であり、丁寧になるほどに業務の負担は増していき、メンタル面を含めた教職員の健康面に大きな影響を及ぼす。教職員の健康を維持しやりがいを持って教育活動に臨むことができるよう、業務を見直し、精選していくことが重要である。</li> <li>・一つ一つの活動を確実に充実させることが、中学生に選ばれる学校となることにつながる。教職員間と学校運営協議会の絆を強め、関係機関との対話・連携を密にし、学校運営の充実を図る必要がある。</li> </ul>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した教育活動を進めます。</li> <li>2. 生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。</li> <li>3. 生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます。</li> </ol>
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。</li> <li>2. 積極的に研修を行い、教職員の資質向上及びコンプライアンス向上に努めます。</li> <li>3. 質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指します。</li> </ol>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①「コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した学校づくりを進めます。」に資する行動	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各家庭や地域と連携し、生徒の基本的な生活習慣等の確立に向けた様々な支援を行い、きめ細やかな進路指導を行う。</li> <li>(2) 各学年と他分掌との協働や、地域の専門機関等との連携を深めながら、充実した学校生活を送れるように、学校全体で個に応じた支援を行う。</li> <li>(3) 総合的な探究の時間等を活用し、地域理解の機会を設け、進路意識の向上につなげる。</li> </ol> <p>【活動指標】1年次は家庭訪問年1回以上、全学年三者面談年1回以上実施</p>	<p>(1) 家庭と連携しながら生徒を支援した。1年次では家庭訪問を年1回以上、2、3年次では個別面談を年1回以上実施した。3年次では、進路講話や適性検査等を複数回実施した。</p> <p>(2) 常に情報共有をして生徒を支援した。障がい者就業・生活支援センター等とも情報交換を行い、個の適正に応じた進路指導をした。</p> <p>(3) 進路ガイダンスや進路研究、地元企業との交流会等を通じて進路意識の向上が見られた。</p> <p>【活動指標】達成</p>	

<p>②「生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。」に資する行動</p>	<p>(1) ICT活用の推進、「観点別学習状況の評価」についての理解、持続可能な社会の創り手を育成できるよう、「SDG's」の理念を踏まえた教育活動の推進を支援する。</p> <p>【活動指標】10回以上の研修を設定、アンケートと検討会1回以上実施</p> <p>(2) 進路資料室や総合掲示板などを活用することで、情報収集能力を育成するとともに、自らのキャリアについて主体的に意思決定し行動する力を育成する。</p> <p>(3) 地域の保健所や消防署と協力し思春期教育講演会やAED講習会を行う。</p> <p>【活動指標】講演会各学年1回、講習会1回実施</p>	<p>(1) ICT活用、「SDG's」共に研修会等の企画・実施はしなかった。研修実施は3回で、目標値の30%に留まった。観点評価と評定の対照表を作成することで、各教科における試行を支援した。</p> <p>【活動指標】未達成</p> <p>(2) 生徒や保護者と丁寧な面談を行うことで、学校斡旋による就職内定率100%を達成した。進路ガイダンスや学校・企業見学会等、主体的に進路決定ができる取り組みを実践できた。</p> <p>(3) 地域の保健師等による思春期教育講演会を3回、消防署員による応急手当講習会を2回実施した。</p> <p>【活動指標】達成</p>
<p>③「生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます」に資する活動</p>	<p>(1) 様々な課題をもつ生徒に対して、学校全体で効果的な指導・支援が行えるよう、教員間で積極的に情報を共有するよう努める。</p> <p>【活動指標】担任・副担任との情報共有、週1回実施</p> <p>(2) 「生徒が、いじめや虐待に関する相談をしやすい体制を作る。」を実施し、生徒の実態把握に努める。</p> <p>【活動指標】いじめや学校生活に関するアンケート、学期に1回以上実施</p> <p>(3) 人権意識の向上を目指し、生徒同士の「つながり」への支援を行う。また、人権サークル部員の募集を積極的に行う。生徒への人権啓発を推進する。</p> <p>【活動指標】人権学習各学期1回以上実施</p>	<p>(1) 学年団や教科担当者との情報共有はスムーズで、生徒支援のための情報共有も適宜実施できた。</p> <p>【活動指標】達成</p> <p>(2) 年間計5回のアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めた。</p> <p>【活動指標】達成</p> <p>(3) 人権学習でグループワークを積極的に取り入れ、生徒同士の「つながり」を意識させた。人権サークルは、勧誘を行ったが入部希望者はいなかった。</p> <p>【活動指標】達成</p>

改善課題

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対話集会や講演会、研修会等がオンライン開催や中止になった。今後、効果的なSNSの有効活用が求められる。

基本的な生活習慣の確立やコミュニケーション、情報の活用に課題がある生徒もいるため、更なる個別の支援が課題である。校内での情報共有はじめ、家庭や関係機関等との連携を今後も継続する必要がある。

3年間を通じた人権学習で、人権意識を高め、いじめや差別のない学校づくりを推進していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>①「コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。」に資する活動</p>	<p>(1) ブログ「今日の紀南」や広報誌「紀南の風」、『学校紹介パンフレット 2022』等を用いて、本校の行事や生徒の学習成果、学校生活の様子を発信する。 【活動指標】年間40回以上の情報発信、報道提供による取材で、年間12回以上の取り上げ</p> <p>(2) 関係機関と連携し、交通安全や防犯などに関わる啓発活動やボランティア活動、他校との交流会等に積極的に参加する。 【活動指標】年3回以上実施</p> <p>(3) 「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」などの会議において、本校の人権学習を公開し、その内容について交流、協議を実施する。 【活動指標】年1回以上実施</p>	<p>(1) ブログ更新年間45回(2月時点)、報道提供による取材は年間14回の取り上げがあり、その他教科で取り組んだ入賞作品等も掲載があった。 【活動指標】達成</p> <p>(2) 生徒会執行部が防犯ボランティアに2回参加した。三重県学校防災ボランティア事業に7名が参加し、宮城県を訪問した。道の駅協議会との様々な共同企画が現在進行形である。 【活動指標】達成</p> <p>(3) 新型コロナウイルスの影響により、公開は中止としたが「人権学習報告書」を作成し、拡大人権教育推進協議会に情報共有を行った。 【活動指標】限定的ではあるが達成</p>	
<p>②「積極的に研修を行い、教職員の資質向上に努めます。」に資する活動</p>	<p>(1) OJT研修の観点から、学年団とともに進路指導業務を行うことで、教員の進路指導に関する資質・能力を向上する。</p> <p>(2) 特別支援教育に関する研修会を行う。 【成果指標】年2回実施</p> <p>(3) 人権大学を通じて学んだことを文書や研修会等で教職員に共有し、教職員への人権啓発を促進する。また担当者会議を計画的かつ系統的に行う。 【活動指標】研修会年2回以上、人権教育担当者会議年6回以上実施</p>	<p>(1) 月1回「教員向け進路ニュース」を配信し、最新の進路情報の提供を行った。生徒情報の共有で、効率的に業務を行うことができた。</p> <p>(2) 特別支援教育に関する教員向け研修会を年2回行った。 【成果指標】達成</p> <p>(3) 人権研修会4回実施。人権大学講座での学びは教職員向けの人権通信で3回発行した。委員会を10回開催し、人権学習の指導案検討や差別事象の経過報告を実施した。 【活動指標】達成</p>	
<p>③「質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワ</p>	<p>(1) 次世代の育成に必要な指導体制を確立するため、総務・教務部の業務の大胆な見直しを推進し、学校規模およびスタッフ数に応じた業務の適正化を図る。 【成果指標】業務カテゴリー数の削減、簡易化、効率化30%以上</p>	<p>(1) 聴講生の募集停止、教育ボランティア制度の簡略化等、約21%業務の削減または簡略化・効率化を行った。 【成果指標】未達成</p>	

<p>ークライフ バランスの とれた組織 を目指しま す。」に資す る活動</p>	<p>(2) きめ細やかな生徒支援の実行に向け、教育相談・特別支援担当と連携し、生徒のサポートの一助とする。</p> <p>【活動指標】学期に2回以上実施</p> <p>(3) 教職員が働きやすい環境づくりの考え方を踏まえ、以下の成果指標・活動指標を目標とし、学校における働き方改革を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%</li> <li>・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100%</li> <li>・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 95%</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人</li> <li>・1人当たりの月平均時間外労働時間30時間以下</li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数 20日</li> </ul>	<p>(2) 特別支援が必要な生徒について個別の指導計画を作成・評価し、気になる生徒調査を年2回した。</p> <p>【活動指標】未達成</p> <p>(3) 達成状況は以下の通り。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校日の18時完全退校の達成率 97% <b>達成</b></li> <li>・部活動休養日 100% <b>達成</b></li> <li>・放課後開催会議の終了割合 71% <b>未達成</b></li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年360時間超え時間外労働者数 3人 <b>未達成</b></li> <li>・月45時間超え時間外労働者数 13人 <b>未達成</b></li> <li>・1人当たりの月平均時間外労働者時間 14.45時間 <b>達成</b></li> <li>・1人当たりの年間休暇取得日数 19.55日 <b>未達成</b></li> </ul>
---	---	--

### 改善課題

学校ホームページでブログのアップ件数は増えたが、閲覧者の数を増加させる必要がある。写真のリニューアルや中学生向けのページの新設等が必要である。

働き方改革が喫緊の課題である。今年度実施した「学校運営協議会委員と教職員の語る会」では、教職員の思いや勤務状況等の情報共有が出来、委員の方に授業サポートにも入っていただけた。しかし、一部の教職員に業務が集中する等、早急に改善すべき課題がある。

### 5 学校関係者評価

<p>明らかになった 改善課題と次へ の取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校運営協議会委員と教職員との語る会」で明らかになった、生徒への支援と教職員の働き方改革を確実に進める必要がある。</li> <li>・学力に課題がある生徒や特別支援が必要な生徒の学びをサポートし、進路を保障するため、学習支援のボランティア等を効率的に活用する必要がある。</li> <li>・地域で子どもたちを育てる環境が整っている強みを活かして、コミュニティ・スクールとして何ができるかということを具体的に提案する必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症と共存した学校と地域の連携を考える必要がある。</li> </ul>
--------------------------------------	---

### 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動につ いての改善策</p>	<p>本校の強みである面倒見のよい学校づくりを進めていく。教職員で生徒の情報共有を密にし、個別の支援を強化して進路保障に繋げていく必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症との共存の中で、効果的な情報発信が求められる。次年度の1年次から始まる1人1台端末を有効活用する準備を早急に進める。</p>
<p>学校運営につ いての改善策</p>	<p>広報活動では、道の駅協議会との連携強化や地元市町の協力を得た防災活動等、生徒主体の活動を活性化させ、多くの活動を発信していく。</p> <p>今後、働き方改革を進めるため、業務内容の改善をすると共に、スクールサポートスタッフや教育ボランティア等の協力により、ワークライフバランスの整った学校運営をしていく必要がある。</p>

